

短歌

庭に来たる山鳩のまに目覚めたり飛びゆく羽音聞きつつ起きる
 丸き線に映りし星の天の川地球の自転教へてくれる
 上弦の月に涙せし開拓の巖しき月日がふと蘇る

あつま文芸友の会発行「文芸あつま第二十三号」から抜粋
 本郷 夫部 慧子
 上野 宮崎 静恵
 浜厚真 山田 志津



Vol.237

厚高インフォメーション Atsuma High school Information



学校の取組をご覧ください。
 厚真高校ホームページ
<http://www.atsuma.hokkaido-c.ed.jp/>

■保護者就職ガイダンス

▽7月19日(火)
 高校生が就職する場合は、一般の就職と異なる「高校生就職協定」に基づいて取り扱われます。就職希望者は、高校から推薦されて就職試験に臨むことになるためです。生徒と高校と保護者が連携して取り組むことも求められます。

■日本・ベラルーシ友好派遣団

▽7月24日(水)～8月1日(木)
 本校より、高田華凜さん(2年)が5人の北海道代表の一人として選ばれ参加しました。ベラルーシの研修施設に滞在し、スポーツや農業体験、観光地巡りを通して現地の高校生と交流してきました。

■ジュニアリーダー研修

▽7月29日(月)～31日(水)
 in ネイパル森
 本校より、高田紗希さん(1年)が参加してきました。さまざまな体験活動を通じて他校の生徒たちと交流してきました。今後の厚高のリーダーの一人になってくれればと期待しています。

■食品衛生管理者講習会

▽7月30日(火)
 苫小牧地方食品衛生協会の協力の下、本校で開催しました。本校では、隔年で継続して開催しています。当日は、学内外から57人(生徒46人)が受講しました。

■いけまぜ夏フェス

▽8月4日(日)
 昨年、厚真で催された「いけまぜ夏フェス」に今年も引き続き、生徒・教職員13人が参加してきました。昨年、この活動の素晴らしさを実感した生徒たちが、率先して参加し活動したことは大きな成長だと思えます。来年は苫小牧開催です。

厚真町 地域おこし 協力隊



企業型地域おこし協力隊
 なりたともや
成田 智哉 さん (31歳)

着任 平成31年4月(1年目)
 出身地 千歳市

file.25

これまでの経歴と移住のきっかけを教えてください
 トヨタ自動車株式会社の人材部門で昨年の11月までの約6年間、価値観や考え方の異なるさまざまな層と話し合いながら調整する仕事をしていた。厚真に来る前はブラジルに駐在していました。
 独立したいけれど何をやるかと各地を回り色々な人と話していく中で出会ったのが、ローカルベンチャースクールでした。厚真は出身地と近く親近感もありますし、町の取り組みや状況もやりがいを感じました。これまでの幅広い視点と向き合ってきた経験を生かしたいと考え、起業を決意しました。
 どのような事業を展開していく予定ですか？
 5月に、マドラー株式会社という会社を設立し、最新のITテクノロジーを使う必要に必要なら場所までの移動ができたり、物が欲しい時に届けられる「モビリティサービス」などに取り組んでいます。「マドラー」はかき混ぜるという意味で、都会と地域、ベテランと若者などを結び役割を担えたらという思いで名づけました。
 また、色々な人が気軽に交流できる場所を作るため、町の有志メンバーと実行委員会を立ち上げました。これからイベントなど面白いことをやりたいと考えていますので気軽に声をかけてください！よろしくお願ひします。

生活支援相談員 だより

「あれから1年がたつんだねえ」この夏、生活支援相談員が訪問にお伺いするなかで、よくそんな会話になりました。震災を経験した多くの人に共通する気持ちではないでしょうか。
 中でも家族を失ったり住み慣れた自宅で暮らせなくなったりした方々にとってのこの1年は、到底言葉にできないような困難を伴うものだったと思います。
 生活支援相談員は、民間アパートや公営住宅などを仮設住宅に準じる形で活用した、いわゆる「みなし仮設住宅」にお住まいの世帯や、農地を離れられないなどの理由で敷地内にトレーラーハウスを設置して暮らしている世帯にも定期的に訪問しています。仮設住宅の入居期間は2年間ですが、公営住宅を

社会福祉協議会 生活支援相談室
 電話:29-7407

みなし仮設住宅の扱いでお住まいの場合は、1年を経過した時点で家賃が発生することになり、その前に仮設住宅団地に引っ越す方や新たに賃貸契約を結んで住み続ける選択をした方もいらっしゃいます。
 「仮設住宅のことばかり取り上げられるけど、“みなし”も大変なんだよ」という本音の言葉を、この間何度も耳にしました。
 これからも季節の移り変わりとともに新たな課題が出てくると思いますが、その都度まずは寄り添いの姿勢でお話を聴かせていただこうと思います。



仮設住宅の側に咲く石巻市から贈られたヒマワリ

災害ボランティアセンター だより

災害ボランティアセンターには、今でも多くのボランティアのご支援や、全国からの応援が寄せられています。ボランティア活動者数は延べ5,161人(8月21日現在)に上ります。また、活動資材や救援物資をお寄せいただいたり、励ましのメッセージも多数届いています。
 特に地震や豪雨災害などの被災地からも多数寄せられており、西日本豪雨災害の被災地からは、たくさんのミカンとともに子どもたちのメッセージや絵を描いた「お絵描き軍手」が届きました。また、東日本大震災の被災地、石巻市や福島県からは、ヒマワリの種や野菜の苗が届き、センターの敷地や仮設

住宅の畑などで大切に育てています。
 このように被災地が被災地を応援するという姿勢は、たくさんの支援をいただいた私たちも考えていかなければならないのかもしれない。
 1年前の当時を思い起こすとき、辛く大変だった思い出とともに、全国各地から多くの支援をいただいた感謝の気持ちも深くなります。



愛媛県の子もたちから



たくさんの寄せ書き

発表します!!

将来の夢&目標

厚真中央小学校6年



てらさか 寺坂 いちか 泉慶くん



くぼ 久保 はるな 花菜さん



たけやま 竹山 しゅう 柊くん